

前川 「決勝に残らなければ」という気持ちもあって予選の方が緊張しましたが、予選も決勝も、すごく楽しく走ることができました。17秒05という記録にも満足しています。16秒台を出したかった思いもありますが、あの舞台で自己ベストを出せて本当によかったです。

市長 パラリンピックで世界の強豪と競い合うというのは素晴らしい経験でしたね。

前川 ハイレベルな世界の選手たちと一緒に走れる機会はありがたいことで、本当に楽しかったです。

市長 伝わってくるものはありましたか。

前川 海外の選手は義足の使い方やアップの方法が私たちと違い、良い研究材料にさせていただきました。

市長 観客の雰囲気はいかがでしたか。

前川 走り幅跳びの日は土曜日だったこともあり満席で「ジャポン、ジャポン」というコールが起きました。

市長 自分の気持ちも盛り上がりますね。

前川 日本だと観客が身内と友達くらいしかなくて本当に少ないんです。大勢の観客の中でできるというのは、本当に幸せでした。

市長 パラリンピックならではの雰囲気だったわけですね。

さて、走り幅跳びも100mも、もう一人の日本人選手である大西瞳選手とともに決勝に進んで、一緒に入賞されました。先輩でありライバルでもありますね。

前川 大西選手がいたから陸上を始めたようなもので、瞳さんの背中をずっと追い掛けてきました。その大好きな先輩と今こうして競い合っていることは、私にとってとても大きな意味があります。

市長 年齢は2倍くらい離れていますが、尊敬する先輩なんですね。



前川 姉のような存在で、大好きです。

市長 さて、前川さんは中学3年生の時に交通事故に遭われたそうですが、お辛いと思いますけれども事故当時の様子をお話しいただけますか。

前川 私はバスケットボールを5年間やっていて、中学3年生の夏の総体の1週間前に交通事故に遭いました。愛犬の散歩中に歩道を歩いている、車道を挟んだ向かいの駐車場から突進してきた車と壁の間に挟まれてしまいました。

市長 バスケットボールに打ち込まれていた当時、障がいを持つようになるとは全く想像だにしていなかった

わけですね。義足になってからもスポーツをしたいという気持ちはあったのですか。

前川 事故に遭った瞬間からもう一回みんなとバスケットボールがしたいと思いましたが、陸上競技をする気は全くありませんでした。最初は車いすバスケットボールをやろうかと考えていました。

市長 車いすバスケットボールについては、津市職員の前田浩司が前川さんをお誘いしたと伺っています。前田は三重県障がい者スポーツ協会の会長ですが、車いすバスケットボールのコーチをしています。車いすバスケットボールを検討され、最終的に陸上競技を選ばれるまでにどのような経緯があったのですか。

世界との差を肌で実感 かけがえのない財産に

KAEDE MAEGAWA

津市スポーツ栄誉賞受賞 前川 楓さん

平成10年2月24日、津市生まれ。育生小学校、橋南中学校、津東高校を経て愛知医療学院短期大学入学。リオ2016パラリンピックに出場し、女子走り幅跳び(T42) 4位入賞 3m68 アジア新記録樹立、女子100m(T42) 7位入賞 17秒05。チームKAITEKI所属。

